

ピンクリボン活動 支援へ15万円寄付

四国労金、県協議会へ

四国労働金庫（杉本宗之理事長）は18日、乳がんの早期発見・治療を啓発しているピンクリボンかがわ県協議会（代表・久米川啓県医師会長）に15万6350円を寄付した。

四国労金は2012年度から、現金自動預払機（ATM）の引き出し1回につき1円を積み立て、四国各

県で同様の活動に取り組む団体に寄付している。9回目の本年度は総額74万667円を贈った。



久米川代表に目録を手渡す
十川常務理事（左）＝高松市
浜ノ町、県医師会館

高松市浜ノ町の県医師会館で贈呈式があり、十川淳二常務理事香川営業本部長が「女性が健康で長く活躍できる社会づくりに貢献するため、今後も活動が続けていきたい」と話し、久米川代表に目録を手渡した。久米川代表は新型コロナウイルスの影響で検診を受ける人が少なくなったとし、「心温まる寄付でありがたい。乳がんは早期に見えれば治るので、啓発活動に力を入れたい」と謝意を示した。